

気候変動枠組条約第12回締約国会議（COP12）及び 京都議定書第2回締約国会合（COP/MOP2）について

1. 開催地： ナイロビ（ケニア）
2. 開催期間： 11月6日（月）～17日（金）
（閣僚級セッションは15日～17日）
3. 会合の主要議題と我が国の主張：
 - 1) 2013年以降の温暖化対策の「次期枠組み」
 - －主要排出国（米国及び中国やインド等）の削減へのコミット
 - －長期目標とそれを達成するための道筋に関する合意に向けた議論
 - －削減ポテンシャルや削減能力に関する共通認識
 - －科学的知見の共有
 - 2) 避けられない気候変動による悪影響への「適応」
 - －開発政策と密接な関係
 - －各国開発機関及び国際開発金融機関の参加が不可欠
 - 3) アフリカ問題
 - －ケニアで開催されるため、アフリカへの貢献が議論される模様

(別紙) これまでの議論の経緯

1. 開会 (11月6日)

COP12議長として、キブワナ・ケニア環境大臣が選出。

2. 第1週目の主な議論の概要は次のとおり。

15日から開始される閣僚級セッションに先立ち、事務レベルの補助機関会合等が行われた。

(1) 次期(2013年～)枠組みについて

- 先進国の次期約束についての検討(議定書第3条第9項)と、議定書全体の検討(議定書第9条)との関係について、以下のとおり議論が分かれている。
 - －先進国は両者の議論の連携の必要性を主張、
 - －途上国は両者を切り離して議論すべき(先進国の更なる取組をまず約束すべき)と主張

(2) 途上国問題(適応)について

- 気候変動の影響への適応基金を付託する機関をどこにするか等について議論が行われている。
- 適応に関する5カ年作業計画に関し、
 - －先進国は、まず科学的な影響等の特定をすべきと主張
 - －途上国は、適応の実施まで幅広く具体的内容を確定させたいと主張

3. 今後の予定

11月15日(水)～17日(金) COP、COP/MOP閣僚級セッション※

11月17日(金) 午後 閉会

※日本政府代表：若林環境大臣